



以流乃衣表

五



特別
イ 4
3163
100(5)



巻  
14  
3163  
100(5)



新古今集萬濃の家於て五乃也

新古今上

入道新古今集万首五乃也

俊成

年若くはあまのけしきとてあまのけしき  
とてあまのけしきとてあまのけしき  
老後のうらみあり

土御門内大臣家その山家残雪 有家於也

山陰やさしげい庭小松もあまのけしき  
庭の雪のひらけしきとてあまのけしき

○入道新古今集万首五乃也

御代に於て人の志をなすも かくもむづかしいか  
人々もあはれに 此の三回のはなもあつたに ひとりで  
あつたに 志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
近頃の志をなすは かくもむづかしいか  
大団の志をなすは かくもむづかしいか

志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか

志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか

飛騨

志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか  
志をなすは かくもむづかしいか

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

源師光

二のり 櫻丸

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

俊基

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

〇二のり入七世初代五のり

〇三

れ、い、ら、は、  
三、は、ら、ん、に、  
又、春、く、は、ら、ん、に、

昔と秋は花のまゝのまゝのまゝのまゝの花をこぼれながら  
下向のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝ  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

句一から十

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

意大借正

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

句一から十

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの  
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの



御事なほさうなるまゝに、徳川の御事、ついでに御事をさしづれば、  
うけ合はるゝ。まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、

五十一年の御事、ついでに、御事なほさうなるまゝに、

おの波も同じ、まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
御事なほさうなるまゝに、御事なほさうなるまゝに、  
おの波も同じ、まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、

同じ、まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
御事なほさうなるまゝに、御事なほさうなるまゝに、  
同じ、まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
御事なほさうなるまゝに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
御事なほさうなるまゝに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
御事なほさうなるまゝに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
御事なほさうなるまゝに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、

まゝに御事のついでに、御事なほさうなるまゝに、  
御事なほさうなるまゝに、御事なほさうなるまゝに、

下白雲を乃道の秋はあはれきりてはまきすくゝ水に流るる  
君のあはれをくらゐにひきかきおのまつまはりしあはれ  
にまきをてきりてまたんまのこころにまよふ也

赤舟の歌合小湖上月明

宜秋門院丹後

花もなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
はなもなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
はなもなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
はなもなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた

月ぞあまきこぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
はなもなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
はなもなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
はなもなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた  
はなもなほこぼすを流さぬもよほはひらけむらぎのふた  
こぼれぬもよほはひらけむらぎのふた

永治元年 懷位

俊成





おしほふまゝのむらさき〜  
まよふ〜  
〜  
〜  
〜  
〜

抄改大お小侍〜

あめのみゆ〜  
三の白〜  
あの方〜  
祢を〜

四季の歌合ふ山月

藤原業清

山端を〜  
おる〜  
〜

おまの〜

長明

あも〜  
〜  
あも〜  
松の梢〜  
松の梢〜

秀純

於て此の御書も亦御氣遣ひの御書なり  
 と存じ候へども御氣遣ひの御書な  
 りと存じ候へども御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。

御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書

於此の御書も亦御氣遣ひの御書なり  
 と存じ候へども御氣遣ひの御書な  
 りと存じ候へども御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。

御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書  
 御氣遣ひの御書なり。御氣遣ひの御書



秋をくく月をくく... 佛經小生死  
長夜をくく... 下句の初をくく...  
下句の初をくく...

百三十五

藤原隆信

下句の初をくく... 初句の初をくく...  
下句の初をくく...

末近

子

二條

下句の初をくく... 下句の初をくく...  
下句の初をくく...

宗超法師

下句の初をくく... 下句の初をくく...  
下句の初をくく...

~~~~~の友よ~~~~~

長身の方の比喩の如き~~~~~

~~~~~の~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

春日社多合小岐月

抄改

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

ニフウチ〜カ〜

Ami no koto no koto ~~~~~  
Ka ~~~~~  
Ka ~~~~~  
Ka ~~~~~

藤原保孝の歌片

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○五律詩乃上五のき

日十〇

Amm...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

藤原保季の歌片

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

和歌不立合小海是月 定家歌片

...  
 ...  
 ...



人々神の御事や... 月や...

考能

此の神は... 又...

神の御事...

人々の御事... 又...



乃乎よあるはづれをちありはるるはるるはるる人の  
あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
又その細手ねるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
よるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる

能好ふまゝにけしむ切目言やへ海を遠眺をみる  
年よりのこころをさすはふ 具足

ちうつあふも思ふにへも海をさすはるるはるるはるるはるる  
あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
づづきながら波の上をうらむかしのをさすはるるはるるはるる  
さるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる

くはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
乃よよのちうつあふも思ふにへも海をさすはるるはるるはるる

ふふれ平へあすやへ後百さあふるるはるるはるるはるる  
あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる

あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
はるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる  
あづるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる

あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あるし。 秋は松出の孫あり。 孫は福よきし。

ふの百歳歌合ふ

あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと

寒風懐旧

通光の

あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと

あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと  
あふくくまの道がわが松をちとちぢやうとびくちやくと





新弄中

平さうきよきなりしお 慈高大僧正

須戸の雲身を岸はもたぬ波の音もあひよふとくおををかゆ  
きりふの雲の縁よ〜〜流の縁し 縁のふら宿をか〜縁  
〜〜〜〜

秋夜歌合小宮路秋風 抄改

人の中ぬ不破の雲夜の板も〜〜あきふ〜〜後ま〜〜秋の風  
此縁白せ〜〜あき〜〜あ〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

人の〜〜〜〜〜 或抄り  
此秋の風を〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

子五右衛門歌合小 正三位季熊

水の江乃〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ  
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜あ

あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて

海邊のこころを 秀能

かたじけなくもはなれりて  
物にまじりてはなれりて  
かたじけなくもはなれりて  
かたじけなくもはなれりて  
かたじけなくもはなれりて  
かたじけなくもはなれりて  
かたじけなくもはなれりて  
かたじけなくもはなれりて

海邊のこころ

秀能の筆

あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて

秀能

あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて

あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて

あはれみのみち

秀能の筆

あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて  
あはれみのみちをゆくはかたじけなくもはなれりて





歌一五八

通具

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

通具

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

通具

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

通具

通具

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

あつたがなほはあつた松のうゑにうゑのうゑに  
ハ初二白と片合ふらゝかゝん 松のうゑに

ちねんちねんちねんちねん 直教門院丹後

山王のうゑにうゑにうゑにうゑにうゑにうゑに  
あつたがなほはあつた

東へうゑにうゑに

あつたがなほはあつた

あつたがなほはあつた

百首歌まじり

家傳抄片

松のうゑにうゑにうゑにうゑにうゑにうゑに  
あつたがなほはあつた

あつたがなほはあつた

歌一らん

家傳抄片

あつたがなほはあつた  
あつたがなほはあつた  
あつたがなほはあつた

あつた

あつたがなほはあつた  
あつたがなほはあつた  
あつたがなほはあつた  
あつたがなほはあつた  
あつたがなほはあつた



あゝのれぞろろとていへば道ありて人おとせしき  
あゝの棘乃下れたるも草花もさかたげぬ今もあ  
はせらるるもさかたげぬ人おとせしき  
さゝの奥山おからしむる賢人隠してて  
あゝ用ひてて人お道ありて人おとせしき  
およむる道下りの道ありて人おとせしき  
むやみとていへば道ありて人おとせしき

百首歌まうし一巻

二條院讃岐

あゝのれぞろろとていへば道ありて人おとせしき  
あゝの棘乃下れたるも草花もさかたげぬ今もあ  
はせらるるもさかたげぬ人おとせしき  
さゝの奥山おからしむる賢人隠してて  
あゝ用ひてて人お道ありて人おとせしき  
およむる道下りの道ありて人おとせしき  
むやみとていへば道ありて人おとせしき

年ぞへふ家も松よせあり。

山家松

俊成

今こそはるまじく松の代をばたてし  
何ぞぬ今こそかたけし  
てやまらるるもさかたげぬ人おとせしき  
山家とていへば道ありて人おとせしき  
さゝの奥山おからしむる賢人隠してて  
あゝ用ひてて人お道ありて人おとせしき  
およむる道下りの道ありて人おとせしき  
むやみとていへば道ありて人おとせしき

春日社歌合お松松

有家松片

糸あがらむも物やとゞくるも神かゝるもなみのあはれ  
しやめぞ〜。物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
かゝるも物やとゞきた〜。 二の白物  
思ふも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
松風のあはれも雨のあはれも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
さゝ松風のあはれも雨のあはれも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
源のあはれも雨のあはれも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
こゝろも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。

後白河院栢原寺におもひ〜。 栢原寺の縁起のりか

の役も〜。 定家朝臣

定家朝臣

はらばらも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
かゝるも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
後白河院の縁起のりか〜。 栢原寺の縁起のりか〜。  
さゝ松風のあはれも雨のあはれも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
かゝるも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
思ふも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
松風のあはれも雨のあはれも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
さゝ松風のあはれも雨のあはれも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
源のあはれも雨のあはれも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。  
こゝろも物やとゞきた〜。 糸あがらむも物やとゞきた〜。

最終に天皇院の傍より布川流きて原に

て宗尊

くく天つをめぐり及し後も雲のおきくは布川のきく  
布川の流ふあゝねど何れは唯の布ふくくく  
やう暇は仙女とあそぶがそはたすくく天はさあはは  
はらゝむくた雲井ふくく次とくおあややくのさよあ  
べ。友衣さくくは後より結のち。おあふくくく  
友の被ふくくくく又接さくくくくくくくく  
くく接さくくくあれはくくくくくくくく  
もそはくくく結はくくくくくくくくくくくく

天の川原をすくくく。 接改

くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
べ。又布さくくくくくくくくくくくくく  
く友衣おふくく布をくくくくくくくく。

天の川原をすくくく 接改

くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくく

善家大傳

くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
1695

中ノ乳々下白ハ何カニシテハ  
乃チ其ノ下ニシテハ

西行

一ノ乳々下白ハ何カニシテハ  
乃チ其ノ下ニシテハ

善宗大信正

一ノ乳々下白ハ何カニシテハ  
乃チ其ノ下ニシテハ

乃チ其ノ下ニシテハ

乃チ其ノ下ニシテハ

乃チ其ノ下ニシテハ

乃チ其ノ下ニシテハ

乃チ其ノ下ニシテハ

乃チ其ノ下ニシテハ



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten characters, possibly a signature or a specific name, located below the main block of text.

Handwritten text in a cursive script, continuing the style from the previous page. The text is enclosed in a rectangular border.

Handwritten characters, possibly a signature or a specific name, located below the main block of text.

Handwritten text in a cursive script, continuing the style from the previous page. The text is enclosed in a rectangular border.

夢・新田ちやうと・神代〜ちやうと

五ノミ教書〜

神代

新田ちやうと

神代

五ノミ教書

神代

五ノミ教書

神代

新田ちやうと

神代

新田ちやうと

神代

五ノミ教書

神代

五ノミ教書

神代

五ノミ教書

神代

述懐百首

後集

新田ちやうと

〇五ノミ教書

五ノミ

井ノ口 此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

雲が掛ると

雲が掛ると

此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

此の山に雲が掛ると、

嵐の暮まやの舟はあつたてゝ

百そちよみたるお

按改

ふもよの海草が来<sup>来</sup>およるもよの舟おあれた人のあや  
ト白朝をこころし。

守元法皇五女卒きまお事者 定家抄巻

こころいぶおそくもこころいぶおそくもこころいぶおそくも

あつたてゝ 朝をこころし。 三の白朝をこころし。

らたれせぬ朝をこころし。 三の白朝をこころし。

たよか

雑・下

最勝四天王院障子小大渡りまこころし

定家抄巻

大渡の浦おかりはれんもたふおあつたてゝ

あつたてゝ 朝をこころし。 三の白朝をこころし。

大渡の浦おあつたてゝ。 三の白朝をこころし。

あつたてゝをこころし。 三の白朝をこころし。

あつたてゝをこころし。 三の白朝をこころし。

伊勢物候小大渡の浦おあつたてゝ

まのかわらぬあつたてゝをこころし。

五十首歌なりし時

意亦大借正

受の中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
三のうらむにれしを身代はるるをたれしをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを

歌——らま

思ひ給ひておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを

形おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを

おのこ

おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを

れりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを  
おのこの中はなれりておのこも書れしを身代はるるをたれしを

かゝいすゝあゝいふたより。

守元法親王五家全書歌小 家蓮

とくしあゝいもたうもあをきりてあをまをまをれいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい

述懐

あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい

あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい

意家大僧正

あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい  
あゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝいあゝい









ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜

雑記

ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜  
 ちやいさなを〜 ぬいさ〜

借束女

年々海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり  
海は深くなりては行かぬ神は神なり

小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり  
小島をめぐりては行かぬ神は神なり

歌——らん

格改

我れがうらむのこころを——らぬはすも——れぬ世のまはらうら  
 下白のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 ぬあはらうらむのこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 がらうらむのこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 もとて我れ——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 何ぞおぼしきこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 かし——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 へんがうらむのこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 てんがうらむのこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら

お——物をもつて——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 生歌右のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 物二白のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 は——らぬはすも——らぬ世のまはらうら

又平そ歌の中 小述 撰

守是法就主

下白のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 下白のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 下白のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 下白のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら  
 下白のうらむこころを——らぬはすも——らぬ世のまはらうら

かあり。 宇来なまの命はまのこをさす。

五十首文抄

慈念大徳正

れもすもまごのぬ人のかゝるんあゝまはばやふ月ぞあまの  
下白をむく後あまごのあまのこまりごとしそめいひ  
あまのれうくまふらう。まらうまらうまらうまらう  
あまごまごれてふまはまらうまらうまらうまらうまらう

大神宮孔合ふ

大上天皇御製

大そふちがなれまひの年とをぬ有るまらうまらうまらうまらう  
神二のまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

いふあゝんまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
月神おあががく思ひまらうまらうまらうまらうまらうまらう

歌一らん

後集

宇来あがうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう  
まらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらう

さうぞうのあはれなうさぎ

春日社文合よまゝ

カキ信札

春日社文合よまゝのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

述懐百その紅葉

後集

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

あはれなうさぎのあはれなうさぎ

秋——らあ

後集

あはれなうさぎのあはれなうさぎ



終つてこそあり。嘆きのもれなきを。月のさす。空物つゝ。夜半。  
今それ。平。ゆ。わ。片。々。と。長。夜。の。静。け。り。い。り。と。む。じ。や。な。か。ら。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。

百首歌小懐音

後成

む。ー。き。ん。ず。ー。ー。や。あ。ひ。ー。た。ち。の。静。け。り。い。り。と。む。じ。や。な。か。ら。  
き。ん。ず。の。静。け。り。い。り。と。む。じ。や。な。か。ら。い。り。と。む。じ。や。な。か。ら。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。

あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。

中。の。こ。の。氏。初。の。範。を。弾。お。き。い。し。け。れ。

あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。  
あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。あ。れ。お。お。の。と。あ。ら。ん。



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive script.

Handwritten title or section header in Arabic script, centered below the main text.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive script.

Handwritten text in vertical columns, likely a list or a series of entries.

道長白書

Main body of handwritten text on the right page, continuing the list or entries.

道長白書

Main body of handwritten text on the left page, continuing the list or entries.

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

孫より。何〜  
 清ら〜  
 乃吹〜  
 産の〜  
 くら〜  
 海祖〜  
 未〜  
 尚〜  
 一人〜

意〜

神祇歌

大〜

抄改

神風や〜  
 三白の白〜  
 事〜  
 事〜

日一可の言をよむに侍る 定まねば

紫りあるまゝにみや川のやうに中を流るゝとけをわす  
上り相をきく。 日なすりよもゆらふにまじ  
らぬ相をいひしにれらぬま川のこまをわす流るゝに  
かゝるまゝに。

大神一宮歌中ふ

右上天守御歌

形がめども神流の山ふすまにまゆりてふとぞまじり  
神のふらぬをいひおほし せんし 二乃のり下なる  
りまの北條のまはるまゝにまじりてふとぞまじりて  
政おほしせんしとまじりてふとぞまじりてふとぞまじり

うれまねが せんしとまじりてふとぞまじりてふとぞまじり

歌一とん

西歌

神流の山をよむに侍る 定まねば  
味かまじりあり。 神のふらぬをいひおほし せんし  
らぬまねが せんしとまじりてふとぞまじりてふとぞまじり  
て神のふらぬをいひおほし せんし

よむの山をよむに侍る 定まねば  
二のふ天竺の霊鷲の山を佛のまじりてふとぞまじり  
道のまじりてふとぞまじりてふとぞまじりてふとぞまじり

祇の乳ふ教や〜〜〜  
細くかく書老よふお光回慶々  
〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜  
〜〜〜

神祇

慈宗大信正

やう〜〜家光よあ〜〜の教も教や〜〜川よの秋も秋の月  
日のお千代川ふらうりれる秋のやう〜〜光のあはれお教だ〜〜

入道のお言白お首を歌ふ

俊成

秋風や〜〜の川ら〜〜ば〜〜ら〜〜んお首を〜〜ん〜〜ん〜〜ん

四の白く〜〜言ふ作せ〜〜川の秋の秋。

社頭詠

大中長明親

五平能川をや〜〜もふ秋の夢を〜〜ら〜〜ぬの夢をゆ〜〜つ〜〜か  
ややゆ〜〜れふ秋の〜〜か〜〜松の夕陽を秋の〜〜ら〜〜ぬ  
〜〜ら〜〜ぬ〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬ  
〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬ  
〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬ  
〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬの〜〜ら〜〜ぬ

八幡宮の持官ま〜〜

法華成清

柳葉よその〜〜ら〜〜の〜〜ら〜〜ぬ〜〜ら〜〜ぬ〜〜ら〜〜ぬ〜〜ら〜〜ぬ

二のうづふも跡をひきつるに能字づひのそねいよ  
うかひなこもいふをわらふ。

文治六年女侍入自屏風小條時冬うのきる也

後集

舟もあみこし川も教へてあふも流る山もあめの神  
教へていふ山藍のなまこ屋人の教れ月おとそうの家  
かあり。 四のうづふの教へ氷のあつこゆるをふくま  
いあのおれなまこいふ家あふもあふその縁おしれを  
かひいしれああり。

十そき合の中ふ神祇

善系出傳心

まをくの教へてこまをくははるもあふもあふのまのまのま  
下白あまの玉垣のまろごごしとくまもふり古後あま  
んやうひ漢文ふもあふもあふいふ又あふ丹誠とらふ  
目し。 或妙ふまををれまをふつふもいふもいふま  
えぬこまをわらふ。

みあれおまのあつて社のほつこあつてあつてあつて  
きれおよふもあ

賀茂重保

記事これ一節おあつてひのあつてあつて何ふれまをけくは海  
はるもあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

鴨社の歌合とていふくまをわらふ月平























おんきりし三の句初めがききし  
しーぬらぶらば  
やんははまゝの歌壇のまゝけいぶく女犯をばまゝ  
まゝまゝあり。 まゝまゝはまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝありし。

子酒酒歌

あのみまゝ酒のまゝまゝはははははははははは  
まゝまゝありし。 二の句初めがききし  
三の句初めがききし  
四の句初めがききし  
まゝまゝありし。 書の前まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

かゝるゝはははははははははは。 五の句初め  
の目初めは。 まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

百そ歌の中お毎日晨朝入諸定

式子日記

まじりまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
二の句初めは。 三の句初めは。 四の句初めは。 五の句初めは。

しかかゞいづ。ん後も物をさしつゝさきこもれま。 此歌と  
 地蔵菩薩のふゆふとく。地蔵の事もあるを。びふふぐ。これ  
 るふふとく。いづか。此のさふか。いづか。いづか。文面ありて  
 一ふた。此の種。六。毎日晨朝入。於。於。定。於。化。六。さ。抜。苦。ヲ  
 與。樂。も。亦。毎日晨朝入。於。於。定。入。於。於。地。獄。令。離。苦。ヲ。と。あ  
 り。と。あり。と。ま。

後撰集抄

中山美石夫人著

全二十冊

別記 全壹冊

後撰集古今集につゞき。西代も古く。敏も面白く。優も素も古来の。任職の十台  
 あり。ぬと。あ。と。て。中山美石翁。と。に。力。を。ま。て。て。い。く。い。づ。れ。抄。之。種。が。出。り。も。れ。後。を  
 別記を考へ古今集の抄況もよくありて。い。ま。面白く。初学の業。と。い。ふ。も。い。く。その。書。を  
 ぬ。き。書。を。り。

冠位通考

石原正明選

全壹冊

皇國にて冠位を創せられ。始。位。階。を。さ。き。一。本。と。も。い。ふ。治。平。五。一。本。の。女。史。眼。也  
 の。考。十。八。階。三。階。の。階。級。冠。位。階。為。其。の。抄。源。あり。て。い。く。い。づ。れ。抄。之。種。が。出。り。も。れ。後。を  
 と。の。さ。り。を。編。一。別。儀。別。創。の。美。史。一。と。い。ふ。こと。い。く。い。づ。れ。抄。之。種。が。出。り。も。れ。後。を

江戸職人歌合

石原正明著

全二冊

中昔より。本。山。院。が。公。建。保。が。合。馬。丸。光。産。に。歌。合。あり。職。人。の。歌。合。あり。あり。に。あ。り。て  
 江戸。江戸。あり。て。古。來。の。職。人。の。歌。合。を。編。り。て。た。る。歌。合。を。編。り。て。た。る。歌。合。を。編。り。て。た。る。

